

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	平成 25年 3月 13日	評価結果市町村受理日	平成 25年 4月 22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201594-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物はニュージーランドから輸入した木材を利用して、木のぬくもりや香りがあふれる造りとなっています。建物のすぐ前が百合が原公園となっているため、天気の良い日やちょっとした時間にでもすぐに公園に行くことができ、とても恵まれた環境にあります。地域の方々も温かく協力的で、避難訓練や町内の催し物などにも利用者と職員とで参加させていただいている。アットホームな雰囲気づくりを心掛けて、入居者の方々には生活させていただきよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR百合が原駅から徒歩圏内で、建物前方に百合が原公園があり、近くにも公園があるなど自然環境に恵まれた環境に位置するグループホームである。建物内は吹き抜けの構造で居間の天井が高く、2か所の天窓から自然光が入り明るく開放的な空間となっている。全体が広くて暖房設備が整い、浴室と脱衣所との温度差が殆どない。共用空間には季節の飾りつけや利用者が職員と一緒に作った手芸品を展示するコーナーを設けるなどセンスがよく居心地がよい。ウッドデッキやサンルームもあり一人になれる居場所も多い。居室も広く、ドアの入り口には手造りの表札やオブジェが飾られ、トイレと洗面所、ベッド、クローゼット、床頭台が備え付けられ、出窓もあるので利用者は鉢植や家族の写真などを並べて楽しんでいる。地域との交流が盛んで、町内会の夏・冬の寄り合いや近くの公園で開催される夏祭りに参加している。事業所の七夕に近所の小学生を招待し、利用者がお菓子を渡している。保育園児が散歩の途中に事業所の中庭に寄ってくれることもある。また、地域の方がギターの弾き語りや南京玉すだれを披露しにきてくれる。医療面が充実しており、内科医師が月2回、歯科医師が週2回往診してくれるので、殆どの利用者が受診し、個別の医療情報も整備されている。医療機関及び老健施設などバックアップ施設が多く利用者と家族の安心感が強い。

V. サービスの成果に関する項目(1号棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念があり、職員は理念を意識して日々取り組んでいる。	法人の理念に加えて昨年事業所独自の理念をつくり、玄関に掲示している。職員は、ケース記録に理念を貼り、毎日確認している。今後は更に理念を進化させ、地域密着を意識した内容とする考えである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事に利用者と参加し地域との交流ができています。又、避難訓練にも町内会の方も参加していただき共に防災に努めている。	町内会の夏・冬の寄り合いや近くの公園で開催される夏祭りに参加している。また、事業所の七夕に近所の小学生を招待し、利用者がお菓子を渡している。保育園児が散歩の途中に中庭に寄ってくれることもある。地域の方がギターの弾き語りや南京玉すだれを披露しにきてくれるなど交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の催し物などにて、認知症の方のケア方法や施設状況などを議題や話題に取り上げ話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開き、施設でのサービスや利用者の状況などを議題に取り上げ話し合っている。参加者からの意見も聞くことができ今後の取り組みにも生かしている。	会議には、町内会役員や地域包括支援センター職員、介護予防センター職員、家族代表などが参加し、事業所の現況や町内行事、外部評価などについて話し合い、議事録も全家族宛に配布しているが、家族の参加は少ない。	1年間の開催日とテーマが分かる年間予定表を作成して参加メンバーと全家族に配布し、運営推進会議に関心を持ってもらう取り組みを期待したい。また、随時、広報などを利用して、欠席する場合でも予め意見を出してもらえようをお願いすることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行われている、札幌市や北区の連絡会議に参加し情報交換などを行っている。又、北区管理者連絡網があり連絡がしやすい環境にある。	市の連絡会議と区の管理者会議に管理者が毎回出席し、担当者と情報交換している。また、日常的に分からないことがあれば区の担当者に電話で相談し、アドバイスをもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が観覧できるマニュアルを作成し確認できるようにしている。玄関の施錠も防犯の為、夜間はしているがそれ以外は行っていない。	身体拘束マニュアルが整備され法人主催の研修も実施されているが、国が示す指定基準における禁止の対象となる具体的な行為については全職員が正しく理解するには至っていない。	法人の研修に加えて、事業所でも勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為について職員の理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中でも皮膚の観察を行い虐待が行われていないか注意し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別な研修の参加や話し合いの場を設けておらず、今後は学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	場合によっては、医師にも話し合いの場に入っただき家族が納得いくまで話し合い、その方の退居や方向性を打ち出している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会の際には、近況報告を行い疑問や意見を聞いて対応している。又、アンケートも実施し今後の対応に反映させたい。	殆どの家族が毎週訪問してくれるので、管理者が話をし意見や要望を聞き、連絡ノートなどで職員に申し送りし、日々の記録「生活(暮らし)アセスメントシート」にも記載している。3か月に1度の「ふぁみりあ-便り」も家族宛に郵送している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やアンケート調査などにて、職員の意見や希望を収集し、それらを管理者会議などにて話し合い反映できるよう努めている。	毎月、ユニット毎の会議を行い職員の意見を聞いている。法人主催で年1回、職員の自己申告をもとに個人面談を行い、法人の常務理事・人事課長、統括施設長が意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	場合によっては、代表者自らケア会議に参加され勤務状況や処遇改定などの話し合いの場を設けている。又、排雪を業者に委託するなど業務軽減に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて研修委員会が設置されており、定期的に研修が行われている。又、各ユニット1名ずつではあるが有期実習型訓練を行いスタッフの育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期の管理者会議を開催し、情報・意見交換を行う場を設けている。又、有期実習型訓練にて他ユニットとの交流や情報交換が行えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や紹介者からの情報をもとに、本人との面談を行い入所にあたっての希望や不安なことを相談していただき対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談より、家族とは密に連絡をとり入所前～後に至るまで、予想される不安や問題を相談して対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で、家族だけでなく利用されていた場所からの情報も求め、本人が、その時に必要なことや不安に思っていることを訊いてサービス利用を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の家族や生い立ち等を話題に出すことで職員と利用者との距離が縮むよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にはかり、共に意見交換を行いながら協力してもらっている。中には家族の持参された物だと積極的に召し上がる方もおり、定期的な面会にて協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望時には、手紙や電話連絡をお手伝いし良い関係が続くよう援助している。	元近所に住んでいた方や友人・知人が訪問しており、毎月のように訪ねてきてくれる方もいる。家族の協力を得て、馴染みの美容室に連れて行ってもらったり、職員が車で、元住んでいた家の前を通ったり、馴染みのスーパーに寄ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交友関係を把握し、食事席や過ごされる位置などに気を配っている。又、他利用者との交流が困難な方は職員との交流を通して孤立しないよう配慮している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院にて退所に至った方の面会を行うなど、契約が終了しても繋がりが途切れぬよう努めている。又、家族にも入所時の写真を送るなどして関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や職員間の情報交換により、その方の過ごし方や希望を把握している。又、意思表示が困難な方には家族からの情報や生活歴により、その方らしく生活できるよう配慮している。	利用開始時に家族等から得た情報をアセスメントシートに記載し、状況が変化したときは都度書き直し、情報を蓄積している。職員は、言葉で表出できない利用者には、態度や動作を注意深く観察し、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集を行い、その方の把握に努めている。他のサービス歴がある場合には、そこに連絡をして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや引継ぎ、日々の記録を通して、全スタッフが一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや、家族からの希望や意見を踏まえ、三ヶ月周期で介護計画の見直しを行い作成している。	介護計画は、職員の意見を聞きながら、3か月毎にモニタリングし、家族の意見を反映させて3か月で介護計画を見直している。日々の記録も介護計画を意識して記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全スタッフが日々のアセスメント記録、スタッフ連絡ノート、家族連絡ノートなどを通して情報を共有し、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情により困難な対応(受診や買い物など)や、個別に応じたサービス(レク活動や外出など)を臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な図書館の利用や、町内会の参加により、地域資源との関わりが持てている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の内科医師による定期往診が月に2回ある、それ以外でも必要に応じて他の病院への受診も対応を行っている。又、家族によっては入所前からのかかりつけ医院の受診を希望される方もいる。	内科医師が月2回、歯科医師が週2回往診してくれるので、殆どの利用者が受診しているが、従来のかかりつけ医を受診している利用者もいる。医療情報は「情報提供書」と「受信記録」をファイリングしている。	

グループホーム 百合が原ふみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院からの訪問看護が週に一回のペースであり、利用者の状態報告を行っている。訪問以外でも変化があればいつでも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連絡体制が整っており、細かな情報交換が行なえている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、利用契約時に御家族に説明している。状況に応じては医師や御家族との話し合いの場を設け今後の対応を話しあっている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を本人・家族に説明し、署名捺印を得ている。状況が変化したときは、医師・看護師・管理者が家族と話し合いながら今後の方針を決め、内容は「家族連絡情報」に記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置講習の研修に参加しているが、新しい職員が随時、研修に参加するには至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、防火・防災対策会議を開催し災害対策に努めている。避難訓練には消防署や近隣住民も参加され協力体制を築いている。	消防署の協力を得て昼・夜間対応の避難訓練を行い、町内会役員などにも参加してもらっている。年2回の夜間対応の自主訓練も行われ、救急救命訓練も定期的に行っている。法人の防火管理者会議も開催しているが、昨年から取組事項である災害時の備品の準備は、現在取り組んでいる段階である。	法人の防火管理者会議の議題として取り上げて、災害時備品の準備を行うことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は尊敬の姿勢と共感の気持ちを持って、日々、利用者と接している。	名字か名前に「さん」付けで呼ぶことを基本としているが、家族の理解を得て、利用者が心地よく感じる愛称で呼ぶケースもある。強い口調とならないよう随時、管理者が注意し、職員間で研鑽している。個人ファイルは、事務所で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、職員に話しやすく頼みやすい雰囲気づくりを心掛けており、訴えが聞かれた時には柔軟に対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の曜日設定は行っているが、一人ひとりの入浴時間を制限することなく、ゆっくりと入浴していたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自己決定を優先し、自己判断が困難な方は同じ服が続かないよう配慮したり、外出時などは御家族の意見を聞き選んでいる。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭にて利用者と一緒に育てた野菜を使用したり、漬物を一緒に漬けるなどして、食事の楽しみが増すよう工夫している。	献立と食材の配達は業者に依頼しているが、誕生日には利用者が好きなメニューで楽しんでいる。菜園で採れた旬の野菜も食卓に上る。テーブル拭きや配下膳、おしぼりたたみ、味見などを職員と一緒にしながら年に2回ほど外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行っており必要摂取量を目指している。摂取量が少ない方は、医師に相談して栄養剤やビタミン剤などを利用して栄養が補えるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力可能な方には声掛けを行い、援助が必要な方は毎食後、口腔ケアを行っている。又、定期の歯科往診があり口腔ケアのフォローをしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄記録により、その方の排泄リズムをつかみ、定期的なトイレ誘導や促しを行っている。	夜間のみおむつを使う利用者もいるが、排泄記録をもとに排泄間隔を把握し、トイレで排泄できるよう支援している。声かけも周囲に聞こえないよう耳元で話している。便座に座っている時は、トイレの外で見守りながら、羞恥心と安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録よりチェックを行い、状況によっては水分を多めに促したりと便秘予防を行っている。又、医師や看護師にも相談し下剤調整などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は定めているが、利用者の都合や状態に応じて時間や曜日をずらして入浴していただいている。入浴拒否がある場合には、誘導の声掛けを工夫してなるべく入浴できるよう努めている。	本人の希望を尊重し、毎日入浴できる体制を整え、全員が週2回平均で入浴しているが、夏季の暑い時期には、毎日シャワーを使う利用者もいる。拒否が強い場合は、医師や看護師から入浴を勧めてもらうなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や習慣に応じて休息をとっていただいている。又、昼夜逆転しないよう、ある程度時間のバランスにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に服薬ファイルを作成し、全職員が服薬情報を確認できるようにしている。受診記録などにより薬の目的や変更の経緯などを伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や能力に応じてアクティビティー活動や作業を提供することで張り合いのある生活が送れるよう提供している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの希望に応じた外出(図書館やドライブ御家族との外出等)支援を行なっている。又、季節に応じた外出(花見、紅葉見学等)も行なっている。	本人からの希望があれば毎日でも散歩ができる。天候の良い時期には、花の開花時期に合わせて毎週のように百合が原公園を散歩している。また、定期的に車で図書館に出かけている。家族と一緒に毎週買い物にいく利用者もいる。冬季は、外出の頻度が少ないのでウッドデッキで外気浴をするなどを検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方は所持してもらっている。自己管理困難な方もお小遣い程度を所持していただくことで、お金に対する安心感が持てている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴え時や、御家族とお話することで安心感が得られる場合には電話連絡のセッティングを行い対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、利用者が製作した物を装飾し家庭的な雰囲気作りを行っている。又、壁には最近行なわれた行事などの写真を飾り、思い出に浸れるよう配慮している。又、各居室に温度計を設置し室温に配慮している。	緩やかなスロープを上がって玄関を入り、正面に1号棟、左手に2号棟がある。居間の天井は、吹き抜けの構造で2か所の天窓から自然光が入り、明るく開放的な空間である。桜の飾りつけや利用者と職員の手作りの手芸品を展示するコーナーを設けるなど居心地のよい共用空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人を好む利用者もあり、周りからの影響がないよう普段過ごされる場所や食事席でのセッティングに気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、御家族にも相談し本人の使い慣れた家具や衣類を持って来ていただき、なるべく混乱せずに安心して生活していただくよう配慮している。	居室には、仏壇や鏡台、ソファ、手作りの手芸品や賞状などが持ち込まれている。出窓のスペースには、植物の鉢や家族の写真を並べ居心地のよい、その人の生活歴を反映した居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体状況に合わせて、手摺りや椅子の位置を工夫するなどして安心して安全に生活できるよう配慮している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	平成 25年 3月 5日	評価結果市町村受理日	平成 25年 4月 22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201594-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1号棟ユニット」に同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2号棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふぁみりあの共通理念を施設内に提示し、全職員が目標に沿って共有している。各自が理念を共有できるように、ユニット会議でも話し合いをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会との交流もあり新年会、夏祭りの参加をしている。利用者と町内会との交流に関しては、今後も継続的に行う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、事業所での利用者の状況を説明したり、町内会の行事や夏祭りに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っており、利用者の状況や取り組みなどを報告したり、広報誌などを活用して説明している。運営推進会議後は必ず質問や、意見がないかを確認している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市連絡会や、北区管理者連絡会などの定期的に参加をして、札幌市の情報提供等や、行政通達の案内をユニット間で提示できるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に含まれている。研修に参加し資料など通して職員周知に努め、業務上に身体拘束につながらないかをスタッフ間で話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修参加により職員周知をおこなっている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修や参考資料で研修の機会を設けている。活用には、いたってない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に事前に見学をしていただきホームでの生活の様子を知っていただくようにしている。契約説明時は契約文読むだけでなく、わかりやすく説明できるように務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置をして苦情受付の流れを入所時に説明し提示している。家族からの意見や要望に対しては、取り組みについての検討を早急にして説明とご理解を頂いている。アンケートの配布もおこなっており、今後の運営に活かせるように話し合いを行って。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的にユニット会議を行っており、会議前では、議題や意見など事前に確認ができるように申し送りノートに記載している。また、会議後は、疑問や意見などがあつた時は、統括施設長との相談をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成については、全スタッフの状況に応じた勤務となっており、スタッフの意見をとり確認するようにしている。例えば冬期間は早番がきびしい職員などは、早番以外で対応している。また、有休獲得数も前年度より増となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修計画があり、各ユニットより参加するように努めている。研修参加資料を会議時や職員がみやすい場所に掲示し各自が確認できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や札幌市・北区管理者連絡会議の場での交流はあり、定期的に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前での生活状況や生活歴を確認することで意見や要望等を聞き利用者、家族が安心して頂けるように心掛けている。特に、家族からは、利用後、ホーム内の生活に慣れたのか、また、受診などの対応については、詳細に説明する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接時は、インテークを通じて、いつでも相談があれば、対応できることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時は、本人の生活状況で困っている事や家族も含めて、他のサービス利用などケアマネジャーとの連携をとり包括的に相談を受けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの希望など、気持ちに沿うかたちでケアができるように支援をおこなっている。日々の気持の変動や体調などに配慮し同じ環境の中で穏やかに過せるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を家族に情報提供すると共に、家族からの近況なども情報提供していただき、職員と家族・本人が、支えていけるように支援している。いつでも面会に来ていただけるように家族様には、声かけをしてる。特に緊急受診や定期受診などの前後の報告は、欠かせないようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で関係を継続している方もいて特に年末年始は友人の来訪もあり、年賀状も欠かさずきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに話しができるように職員が間に入ったり、同席にこだわる方以外は、リビングの座席を変更したりお互いに話しやすい環境をつくっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、医療機関に長期入院する方が多い為、医療相談員や家族・利用者の面会をして、今後の話しについての相談を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位という立場から、表情やしぐさが困難な利用者に対しては、現状での変化を職員間で話しあったり、家族に相談したり、本人の意向に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や、趣味・嗜好などを取り入れるようにケアプランに繁栄し経過をみている。また、利用者の希望については、家族や医療機関との相談も行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況は、個人記録に記載した、健康状況については、受診記録に記載している。気分・体調の変化を見極め、申し送り等により柔軟に対応できるように努めている。体調変化については、主治医、看護師との連絡をかせないようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、会議で見直しを行っており、利用者の生活の中での役割など可能性を引き出せるようにしている。必要時は家族にも相談している。ケアプラン作成後は、再度見直しができるように全職員が閲覧できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・受診記録があり、職員がいつでも閲覧できるようにしている。特に必要な特記事項は、申し送りノートに記載し全職員共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族その都度生まれるニーズについては、全職員に伝わるように申し送りノートに記載して、情報共有を図り話し合いを行っている。サービスについても認知症の進行により低下に伴った利用者についても残存機能を生かし継続的に行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流については、近隣の子供たちがホームにきて七夕のつどいを行なったり、町内会の参加、音楽療法も継続的に進んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医を協力病院に、変更するかどうかが確認している。内科往診、精神科往診、月2回ごとに実施している。本人の不調があれば、主治医に相談しながら受診をしている。受診前後家族に相談も行っている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週一回訪問看護があり、その都度体調変化などを看護師に相談し必要があれば、受診できるように体制をとっている。また、利用者の生活指導への助言も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院医療相談員や訪問看護師と連携をとっている。入院時の体調変化など家族・職員間で共有するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に関する指針の説明と共に利用者・家族の状況を踏まえ協力病院との連携をとり方向性を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修にて救急蘇生法2名参加している。急変時の対応(緊急連絡先)マニュアルが確認できるようにしている。応急手当法は、日誌に添付いつでも確認できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員との避難訓練は利用者も参加し訓練も行っている。年1回のペースではあるが町内会長さんとも一緒に避難訓練を行っている。ふぁみりあ内での防火管理者会議を行っており、災害に対して知識を深めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の声かけに対しても個々に合わせてわかりやすく利用者一人一人の言葉がけや励ましが単調になりすぎないように声かけをしている。生活にメリハリがでるように声かけを行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話、職員との会話の中でやりたいこと、思っていることを傾聴し記録に残したり、伝えたい事を話せる環境づくりに配慮しケアプランにも反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日々の生活の中で気分や体調に配慮しながら、食事時間をずらしたりまた、気分に変調がある時などは、居室にて職員と一緒に食べる時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容は月1回きており、ほとんどの方が利用している。利用するかしなかは、本人の選択に任せている方も数名いる。外出時は、見だしなみができるように見守りをしている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をつくる楽しみとして、ギョウザ作りなど行ったり、食事の準備、片付けは、個々のADL、認知に合わせて声かけをし、手伝って頂いている。食事制限・禁嫌食についても対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに、カロリー計算されており、健康維持に努めている。水分・食事摂取は、全利用者に水分量・食事を記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の理解力に合わせて促し、介助を行っている。歯科衛生士による訪問ケアを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事・間食時前後に個々に合わせて、声かけ誘導を行なってる。また、表情やしぐさなど時間にとられないように、支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳は、朝に飲用の習慣を行っており、日中の食後のデザートでもヨーグルトを飲用することもある。便秘ぎみの方については、主治医、看護師と相談をしながら調整をおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まってるが、時間にとられず利用者の体調や気分配慮している。一人一人余裕を持った入浴を楽しめるように、入居者8名を2日に渡って入浴をしている。入浴は、職員と利用者のコミュニケーションをとる場となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間見守り、声かけをしている。夜間テレビ視聴を楽しみにしてる方には、時間帯にチャンネルを合わせたり、夜間でも楽しみながら過ごして頂けるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知力によって理解・困難な方以外は、用法、用量について主治医と相談しながら支援を行っている。職員間では、薬の変更について、申し送りノートや薬剤情報を、確認できる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人に合った役割である仕事ができるように、声かけをして軽作業など行っている。嗜好品については、継続できるようにケアプランにも繁栄されている。気分転換を兼ねて買い物支援も行っている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの生活の中で、利用者から話があった「たまには、外で食べたいね。」という言葉をきっかけに昨年は、グループごとに分かれて外食をしている。季節に合わせた外出支援や、嗜好品に応じた買い物支援も行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の認知力に考慮して、家族と相談のもと少額管理している。少額管理することで安心感があり、買い物時は金銭の出し入れを自力でしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の利用希望時は、個々の力に合わせて支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を通じての写真や、外出行事での写真の掲示を季節ごとにしている。季節ごとの飾りは、利用者と一緒に作ったり、昨年は利用者が目に止まる場所に、朝顔を植えて鑑賞している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファやサンルームのソファは、居室以外一人でなれる空間で本を読んだり、新聞を読んだり利用者同士で過ごせる空間になっている。朝早く起きている利用者の中には、朝刊を読んだ後、廊下の歩行練習を欠かせない方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、行事の時の写真や家族写真を貼ったり、入所前から、在宅生活で使い慣れたものを持ち込み使用して頂いている。その後も、家族と相談して使い慣れた物を持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は広く、手すりを設置し、室外では車椅子使用の方も、室内では、歩行器を使用したり、つたえ歩き、自力歩行の方もいる。身体機能に応じて、移乗バーも設置している。自力歩行意欲を促す為、声かけや促しを適切に行っている。定期的に歩行練習をおこなっている。利用者もいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 百合が原ふぁみりあ

作成日：平成 25年 4月 3日

市町村受理日：平成 25年 4月 22日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時での備蓄品の検討はされているが、整備されるに至っていない。	災害時での備蓄品の必要性和整備をしていき、防災に対する認識を全職員が高める。	ふぁみりあ内での防火管理者会議を通じて、災害時での備蓄品の検討と整備をしていく。	H25年4月 ～H26年3 月
2	4	運営推進会議での家族様の参加が少ない。	運営推進会議での取り組みなどを理解していただき、関心を持っていただく。	年間計画として運営推進会議でのテーマや開催日などを作成して関心を持っていただくようにする。	H25年5月 ～8月
3	6	身体拘束について、国が示す指定基準における禁止対象となる具体的行為について、全職員が正しく理解するに至っていない。	身体拘束について、国が示す指定基準における禁止の対象となる具体的行為について、全職員が周知し、法人内での研修参加もしていく。	身体拘束マニュアルの再確認と、研修を通じての参加やユニット会議内での勉強会の実施を行い、職員の理解を深める。	H25年4月 ～H26年3 月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。